

ご教話 神道は自然との共生

祭並月 (7月15日)

繋がりを見失わない」と云う意味があります。信仰とは、まさにそれが大切な目的の一つではないでしょうか。地球に生命が誕生して以来、遙か永い年月をかけて、遥か永い年月をかけて繋いできた命の連続が、今

今日は夏休みという事もあって、子どもさんも大勢参拝下さいました。命の大切さ、又命の連続性を次世代へ繋いでいくお姿こそが、信仰の基本ではないかと存じます。

季節は梅雨の真つ最中で同時に今年は雷がよく発生し、昨晩も大きな雷が鳴り響いておりました。

地に天然の肥料をもちたらずのです。植物の成長に必要な肥料の三要素は、窒素・リン酸・カリウムで、空気の成分の大部分は窒素なので、天然水で程よく希釈された窒素肥料が十分に供給されるので、豊作となるのです。

雷の放電現象によって、空気中の酸素や窒素がイオン化されます。これらのイオンが雨に溶け込んで、大

雷と農作物の関係性を伝えるのに「しめ縄」を例に挙げたそうなのです。しめ縄は太い本体の部分、細い藁の部分、そして御幣があります。宮沢賢治は、本体の部分が「雲」、藁の部分が「雨」、御幣が「雷」を表している」と説明しました。

「雷の多い年は、農作物が豊作だ」と昔から云われておりましたが、これは単なる言い伝えではなく、科学的な根拠があります。

しめ縄は、神様の領域と人間の領域との境にある、いわゆる境界であり、更に、豊かな実りを祈るために、雲と雨と雷を表現したあの形で、古来神社に奉納されているのです。

権現家のおよろこび 少権現職・訓啓様家に 長女誕生なさる。

七月二十一日、本部企画した。部長・少権現職訓啓様、敬子様ご夫妻に、ご長女が誕生になりました。教父様ご夫婦におかれては、十人目の孫様とされます。「実玖」様と命名されます。

古の日本人の祖先が既に、雷の多い年は、農作物が豊作だ」ということを、経験から知っていたのではないのでしょうか。それ程、自然は偉大で、大きな恵みを我々人間にもたらしてくれていますが、人間の身体もまた自然の産

教会行事	
九月 一日(水) 月並祭	午後七時
五日(日) 御本宮月並祭	午前十一時半
御本宮遙拝式	午前九時
八日(水) 修行日	午前十一時、午後七時
九日(木) 教祖祭	午後七時
十二日(日) 西播教会修行日	午後七時
十五日(水) 月並祭	午後七時
十六日(木) 宝生会(ザ、CC)	
十八日(土) 養老教会修行日	
十九日(日) にし恋マルシェ(十月三十一日に延期)	
二十三日(祝) 秋之祖先霊大祭	午後七時半
月並祭	午後七時
三日(日) 御本宮秋之大祭	午前十一時半
八日(金) 修行日	午前十一時、午後七時
九日(土) 大祭準備	午前九時

ク質からも分解される度に大量の毒が発生しているのです。「食」は一見楽しい行為ではありますが、注意しないと「キケン行為」になりかねないのだそうです。食べるといふキケン行為に挑む臓器が肝臓で、先程の様なあらゆる毒を二十四時間休みなく、五〇〇以上の化学反応で処理し、栄養素を生成し続けてくれているのです。ですからお酒の好きな方も、大切な肝臓を労りながら、信仰生活心得にもあります様に「飲み過ぎず」、楽しんで頂ければと存じます。

祝祭日には必ず国旗を掲揚しましょう

寶生教 国旗掲揚運動



発行所 本部 寶生教大阪本部
大阪府西淀川区北堀江3丁目10番
電話 06(6531)6722
FAX 06(6531)6152
© (非売品)

9月号

自家成立の
根源は和にあり
秩序の根源は
神祖崇敬より

ご教話 日本人らしきを守る

立教記念大祭



大祭、ご教話なさる本部長様

只今は、寶生教立教記念大祭の斎行、誠に御座居ます。今年度の夏は、一際暑さが厳しいように感じます。皆様どうぞ身体ご自愛下さい。又加えてコロナ禍の影響で、暑くてもマスクを外せない不便な世情です。

その様な酷暑の最中を、斯くも熱心に西播、養老両教会長様を筆頭に、支部御家族、教信徒の皆様、又遠方各地、大阪府下、市内近郊の本部教信徒の皆様、道

の私達の命です。それは、人間では計り知ることのない神秘的なこと。ご祖先が積み上げて下さったお徳にこそ、目には見えない大切な何かを詰まっております。

本日(立教記念大祭)は、正にその名の通り、御教祖護國倭魂雄之命が、私達の寶生教を惟神の御神威により打ち立てられた御偉業を讃え、大神様の日々のご守護に感謝し、その高き御神徳に浴することが出来る大

祭であり、自然の中で生かされている命に過ぎません。先日あるテレビ番組で、人間の「肝臓」の不思議についてのお話を聞きました。肝臓は「肝心」の「肝」と名付けられている臓器だが、非常に重要な器けあって、「毒と戦う勇者」と呼ばれているそうなのです。口から入る飲食物の中で最も危険な毒が実はお酒で、アルコールは分解過程で猛毒をまき散らすと云われております。

祭であります。大切な事は、御教祖の立教の理念に想いを馳せ、その想いを深く理解し、次の世代へどの様な形で託していくのかを考える事ではないのでしょうか。



この御神命にそうべく、まずは、寶生教を信仰する私達教信徒が、健康な身体、健全な精神を保ち続けなければなりません。その為に大神様は御教祖を通じて、様々な奇しき御力を、現代に生きる私達にも現して下さいます。

祭大例之秋 大阪本部 御本宮

十月十日(日) 養老教会 西播教会

午前十時半 十一月三日(祝)

寶生教の「御朱印」や、時代に即した「インスタグラム」なども始まりました。皆様にもご理解、ご協力頂き、教信徒一丸となって、この尊き教えの布教に努めて参りたいと存じます。五十年先、百年先を担う

納涼会は割愛なれど、直会も例年通り盛大に ——〇九周年の立教記念大祭——

「大暑」を過ぎ、蟬時雨鳴り止まぬ七月二十五日の佳き日。寶生教の立教の日（七月三十日）に五日早く、立教記念大祭が厳肅に且つ盛大に執行されました。前日の二十四日、恒例の神賑わい行事・納涼会は、コロナ禍の世情を鑑み惜しくも割愛。



本部長様、祭主祝詞奏上

役員、有志の皆様により大祭準備が万端整い、宵宮祭を斎行。境内地の四方を祝詞奏上。

副本部長様と次女の倭子様、爽快な舞と、楽人の優雅な演奏が、互いに息を合わせ奉舞致しました。玉串奉奠は齋主代表玉串に、参拝者一同心を一つに列拜。教えの益々の発展と、教信徒各家の自家成立繁栄を祈りました。

福当たり抽選。読み上げられる番号に、一喜一憂、大祭お下りの御神酒、御鯛、鏡餅に、有志の皆様がお供え下さった嬉しい賞品を頂きました。締め括りに養老教会長様のご発声で万歳三唱。今夏を健康に過ごす為の活力と、来年立教一一〇周年の節目を迎える希望を胸に散会となりました。

最後になりましたが、総代様を始め役員各位、有志の皆様には連日に亘るご奉仕を賜り、衷心より感謝申し上げます。来年も盛大な記念大祭の斎行、又宵宮・納涼会が賑々しく開催されます事を心より祈念申し上げます。

これは外見上のことのみをいうのではなく、人に迷惑をかけないように自身の在り方を正しくということである。綺麗に仕付けられた田に、日本の躰の根本をみるように思う。」という記事です。まさに、日本人は自然との共生、又日本人らしい心を使うことのできる記事であると読解致しました。



この稲の田植え、現代では農機具を使うところが多いが、昔は全て人の手で行われていた。苗は本場に綺麗に一列等間隔に植え付けられ、これを仕付け（しつけ）といった。日本独自の漢字「躰」の字を書く「しつけ」は「仕付け」と別の言葉が相まって定着した言葉といえる。「身を美しく」。

話教 八月は終戦の月

今日は八月一日。別名、「八朔」と呼ばれております。この八朔は、実は旧暦の八月一日のことで、今の暦では九月頃です。亦の名を「田の実節句」とも、「頼み節句」とも云い、

秋に向けて稲の豊作を祈る「八朔」と呼ばれております。或いは田の持ち主が、隣近所へ稲刈りの手伝いを頼みに行く、とも云われております。今朝の産経新聞に、茶道裏千家前家元・千玄室さん

の記事がございました。「本日八月朔日（ついたち）いわゆる八朔と呼ばれる日である。『田の実節句』、稲の収穫の繁忙期にお互い手を貸し合うために挨拶する日であった。」

され終戦を迎えたのです。終戦に際し、昭和天皇は日本の国体護持と日本国民の生活を守る為に、御自らの命を投げ打つご覚悟を決められたのです。

御本宮 月並祭

毎月第一日曜日 午前十一時半より

ことこの繰り返し。人々はそれに慣れてきて『緊急事態宣言』が出て、あ、そう、といった程度の感じ。なんとも真剣さに欠けている。

もしこの事態が、例えば、武器による日本への攻撃であるとすると、現行の『緊急事態宣言』などという柔な話ですむであろうか。

とって忘れてはならない、終戦の月です。日本の為に、又日本の未来の為に命を落とされた人達のお陰で、今の私達がおります。

え、日本を守り、日本の歴史を守ることを考えるのが何より大切です。今日は殊に、終戦の月ということで、お互いにそういったことにも思いを寄せると致しましょう。

よせてお話ししました様に、昭和天皇のお陰で今の日本があると云っても過言ではないのです。

昭和天皇は御前会議に於けるいわゆる「聖断」のなかで、「今停戦すれば、将来発展の根基は残る。ですから私の命を投げ打つても連合国に対してポツダム宣言を受諾することにより、か賛成してほしい。」と表明されました。

話教 今の日本の平和は 昭和天皇、先人方のお陰

月並祭 (8月15日)

大正十二年、関東大震災のとき、東京府（当時）、そして、神奈川県・千葉・埼玉の三県に対して、政府は緊急勅令に基づき、いわゆる『行政戒厳』を宣言した。

ナ禍、大阪府も緊急事態宣言中ではありますが、東京オリンピックの閉会式から一週間が経ちました、無観客であったとはいえ、選手達の活躍に感動も致しましたし、無事に開催できて良かったなと感じて居るところでございます。

事を開催され、何処か閉塞感のある今の世の中が少しでも明るくなるよう願っております。

す。このお盆の期間に、各家のご祖先が本家の霊舎にお戻りになります。本家に家族親戚が集まって、ご祖先と同じ時間、同じ空間を過ごすことで、更なるお徳を授かるということなのです。

その戦は必ず負けず、必ず勝つべきです。このまま突き進むべきです。」と進言されたのです。

「私の命は守らなくても良いので、日本国民を救ってほしい。」とのおことばに、マッカーサーの気持ちは一変し、日本の国体が護持され、日本国民の生活が守られたのです。

当然、現自衛隊を正式に軍として法律で規定すべきである。かつて存在した日本軍も戒厳令も、勝者となった占領軍によって廃止されたが、日本をまともな国家として立て直すには、軍と戒厳令が必要なのではないか。

今、コロナ禍の中にあればこそ、一致協力して必要とする法を整備すべきではないのか。現行の『緊急事態宣言』には真の強制力がなく、出したり引つ込めたりされている姿は、無惨。

や、自然の摂理に逆らってはいけないと云う事ではないでしょうか。自然に対する畏敬の念を決して忘れないでください。自然災害に努力をして生活することが大切ではないかと存じます。

その犠牲の上に現在の我々の生活があるのです。そのことを胸に刻み、英霊の御霊が安らかならんと心を祈ることが、今を生きる我々が今日という日にすべきことなのです。

その戦は必ず負けず、必ず勝つべきです。このまま突き進むべきです。」と進言されたのです。

まさに昭和天皇のお陰で、そして犠牲になった多くの先人方のお陰で、今の日本の平和があるわけでございます。

今、コロナ禍の中にあればこそ、一致協力して必要とする法を整備すべきではないのか。現行の『緊急事態宣言』には真の強制力がなく、出したり引つ込めたりされている姿は、無惨。



月並祭に続き 靖国神社を遍拝

「お盆」は「盂蘭盆会」という仏教用語が語源で

「私」の命は守らなくても良いので、日本国民を救ってほしい。」とのおことばに、マッカーサーの気持ちは一変し、日本の国体が護持され、日本国民の生活が守られたのです。

「私」の命は守らなくても良いので、日本国民を救ってほしい。」とのおことばに、マッカーサーの気持ちは一変し、日本の国体が護持され、日本国民の生活が守られたのです。